

Interview
**Before
After**

vol.04

大手グループ参入と合併を経て 包装のトータルサポーターに成長

本社と工場が一体化した
新拠点で次のステージへ

サンパック 株式会社

本社
福岡県筑後市野町500番地
TEL:0942-53-8471



1972年の設立以来、顧客のあらゆる要望を実現するために、包装資材や紙器、ラベルシールなどによる高付加価値製品の提供に注力。企画・デザインから製造、納品まで、ワンストップサービスで迅速に対応。新拠点では、最新設備を導入して生産拡大とサービス拡充を目指す。





サンパック 株式会社

代表取締役 まさ だ じゅん 増田 淳 氏

1969年 大阪府大阪市生まれ
1999年 株式会社メイワパックス入社
2011年 代表取締役社長就任
2013年 サンパック株式会社 代表取締役就任

迅速で柔軟な対応力で 地域の顧客を開拓し躍進

サンパックの前身となる会社を初代代表の目野邦彦め の くにひこが興したのは、およそ半世紀前の1972年のこと。包装資材を取り扱う会社から一緒に独立した3名とともに、包装資材卸売業を開始しました。

当初は、みやま市瀬高町にある瀬高駅前のタクシー会社待合所の2階、わずか5、6坪の場所を間借りして、倉庫兼用の事務所を構えていたと聞いています。

規模は小さな会社でしたが、お客さまのご要望への対応力が少しずつ評判となり、徐々にお取引先の信頼を獲得して売上を伸ばしていきました。お客さまが必要な分を、毎日自社便で供給する。イレギュラーな注文が入れば、迅速に対応して届ける。そうすることで、大手にはなかなかできない、「小回りがきいて使い勝手のよい会社」として、より多くのお客さまに認知されていったのです。

お取引が増していく中で、1989年には現本社工場の隣に事務所を移転し、大きな倉庫を建設しました。この倉庫を建てたことで

サービスが広がり、扱う商材の幅やアイテム数を増やして、お客さまの更なるニーズに対してこまやかに対応できる会社へと、着実な進化を遂げていきました。

お客さまのあらゆるご要望にお応えして、ワンストップサービスのスピーディーな対応で高品質な商材をお届けするという事業姿勢は、創業当初に育まれたものであり、今も変わっておりません。

メイワパックスグループ 参入からグループの3社合併へ

当社の歴史において、最初の大きな転機が訪れたのは、2013年。事業後継者の問題から、大阪および東京に本社を置く株式会社メイワパックスのグループへ参入する運びとなりました。

メイワパックスは同じ業界の企業で、包装分野のなかでもプラスチックフィルム素材とする軟包装のプロフェッショナル集団として知られています。国内に8か所の自社工場を有して、質の高い製品を一貫生産し、安定的に供給できる体制を構築。食品、医薬品、



増田 淳 代表

化粧品、電子材料、工業材料など、軟包装資材の用途は多岐にわたっており、これまでに手がけてきた製品は10万種におよびます。そして、サンパックにとって次の転機となるのが、当社を含むメイワパックスグループの3社が合併統合した2019年。サンパックが、福岡シール株式会社と久留米精版印刷有限会社を吸収合併する形でした。

当社と合併したこの2社は、もともと当社との事業面での結びつきが強かったため、メイワパックスグループにおける九州拠点としての統合は、事業の合理性の点から理にかなった展開だったといえます。その経緯を遡れば、サンパックの高度な対応力に端を発しており、お客さまのニーズにお応えすべく最適な包装資材を提案する過程で、自社でまか

なえない物を外部委託で調達していたビジネススタイルが生んだ関係性でした。包装資材への高精度な印刷を得意とする久留米精版印刷、包装資材や商品に貼付するシールやラベルを製造する福岡シールは、それぞれの強みをもった、サンパックにとっては欠かせないビジネスパートナーだったのです。ですから、お客さまのご要望に対して、あらゆる方面から手厚くサポートできる総合力こそ、現在の当社が誇る提供価値といえます。商圏は福岡だけにとどまらず、九州全域、更には首都圏などのお客さまのビジネスにも関わっています。市場を見きわめるマーケティング、きめこまやかなプランニング、



旧工場

独創的な設計・デザインのソフト面からのサポートに始まり、高品質のパッケージ、効果的な販促資材の提供というハード面のサポートにいたるまで、トータルでお客さまの課題解決に貢献しています。

当社の取り扱う商材は、工業用品、ギフト、食品、衛生用品、医薬・化粧品品の各業界に対して、フィルム、紙器、包装材、成形品、ラベル、販促物と多岐にわたります。たとえば、紙器事業については、化粧品、ギフト用パッケージを始め、包装紙や紙袋など紙製品をデザイン段階からご提案しています。シール・ラベル事業では、独自性の高いコールド箔（メタリックな輝きを放つ高級感のある箔加工）や



さまざまな形状・デザインの紙器を提案している



販売促進効果の高いアテンションシール



高い品質で多くの製品を受注

POPラベル（店頭・陳列棚用の販促ラベル）から一般シールまで、あらゆるシールを手がけています。そのほかの取り扱い商品についても、1万点以上の資材調達ネットワークを駆使してご要望に合わせたご提案をおこなっています。

なかでも、食品加工メーカーさまとの付き合いは深く、「この食品にはどんな包装が必要か」「配送にはどんな配慮が必要か」といった点に関する情報を豊富に有しているため、当社のノウハウはお客さまから大いに頼りにされています。

また、紙器製造、シール製造においては、自社で一貫生産できる体制を整えているた

め、お客さまが望まれる製品を、必要なタイミングでご提供することが可能で、豊かなノウハウを独自の強みとしながら、あらゆるご要望にきめこまやかにお応えし、顧客満足度の高いビジネスを実現しています。

合併後に社屋と工場を 新設した四つの理由

2019年の3社合併に伴って、拠点を統合するために新本社と工場が一体化した建物を新設し、本年より本稼働を開始しました。これについては、四つの大きな理由があります。

まず一つめは、工場設備および生産ラインの配置の最適化。敷地は約9240平方メートルあり、従来の社屋と工場より大きくなったことでレイアウトの自由度が高まり、より理想的な生産環境を実現できました。以前の生産現場は、工場内の動線において合理性と効率性に欠ける面があったため、現場の意見を吸い上げつつ作業効率の改善に重点を置いて設計をおこないました。

二つめは、情報の伝達性を高めること。本社機能と工場を一体化することで、情報共



新しく導入した新型印刷機



大きくなった工場は動線にゆとりができた



広々とした食堂



商談スペース

有の精度と速度を高めるのに大いに役立っていると感じています。一部はオートメーション化しているとはいえ、人の目や手による作業も少なくない中、いかにロスや不良品を出さないようにするかは、現場と生産管理部門、品質管理部門の密な連携、タイムリーな動きが不可欠であると考えています。

三つめは、食品加工部門の増設。お客さまのお困り事を解決に導く当社の事業姿勢から、ある食品会社さまより包装への食品封入作業を請け負う形となり、その作業のために食品加工専用室を工場内に設けました。端的

に言えば食品の袋詰めですが、これをきつかけとして、食品加工事業の更なるニーズにもできるかぎりお応えしていくために、新部門を増設した次第です。

そして、これがもっとも肝心な部分ともいえますが、社員が心身ともに快適に働け、生産性の向上を実感しながらやりがいを味わえる労働環境の整備が四つめの理由です。会社の合併によって従業員が増えた分、そのためのスペースが必要となったのが発端ですが、手狭になった作業場を広くするだけでなく、100名は収容できる食堂、ゆったりと

くつろげる休憩室、広く使いやすい駐車場も設けました。社員が過ごすあらゆる場所が、清潔で快適、居心地のよい空間となったことで、生産性の向上のみならず、一人ひとりの労働意欲向上が期待できる場になったとらえています。

そして、当社にとって大事なものは、新本社と工場の稼働開始はあくまでも通過点だということ。今後も作業効率と生産性向上のための継続的な精査と改善をおこなっていきます。

初代の思いがもたらした 福岡銀行との関係

新拠点の建設に際しては、メインバンクである福岡銀行の久留米営業部に相談のうえ、FFGビジネスコンサルティング（以下、FFGBC）につないでいただいた経緯があります。

新本社と工場を一体化させた建物を造るといっても、何から手を付ければいいのか、どう進めればいいのか、私たちには設計や建築に関する専門知識がない状態で半ば途方に暮れていたところでしたので、さまざまな場面でお力添えをいただき、本当に感謝しています。建設業者の選定から関わっていただき、設計などの打ち合わせにも毎回、同席いただいて、その都度的確なアドバイスに助けられました。

たとえば、見積もり一つをとっても、私たちには建設会社の示した金額が妥当なものであるかどうかの判断もつきません。比較検討や判断の材料となる助言を、間に入ったFFGBCからいただけたおかげで、新工場への導入をあきらめていた設備まで手に入れるこ

とができただけで、当社の今後を左右する一大プロジェクトをなんとか成功させることができました。私たちだけでは、とうてい乗りきれなかったのは明らかです。

そもそも福岡銀行との付き合いは、初代代表の目野の頃から始まっています。当時の目野と支店とのやりとりがどのようなものだったかはわかりませんが、目野は福岡銀行をよほど気に入ったものと見え、銀行との取引に関しては「うちは福岡銀行だけ」と決め、それを覆すことはしなかったようです。

「かゆいところに手が届く」 存在でありたい

新しい社屋と工場ができたことは、周りに目立つ建物の少ない地域にとって一つの刺激となったようで、地域のさまざまな方々のお付き合いが始まる契機にもなりました。たとえば、地域にある神社の社務所建て替えでは、わずかばかりですが寄付をさせていただき、ご縁を得ました。一つひとつの出会いとつながりを大切にして、その積み重ねの結果が地域貢献や社会への奉仕につながるのな

ら、地域経済の発展を担う企業としての役目を少しでも果たせるのではないかと考えています。

お客さまのご要望をかなえる姿勢をこれからも崩さずに事業を進めていくのはもちろん、多くのお取引の実績によって構築した各業界とのネットワークをもとに、それを最大限に活かす取り組みにも力を入れていくつもりです。具体的には、お客さま同士を引き合わせてそれぞれのお困り事を解消する、ビジネス・マッチングのような取り組みにまで活動を発展させていくのが理想。創業時と変わらず、お客さまに寄り添いながら、お客さまの「かゆいところに手が届く」、そんな存在であり続けたいです。

お問い合わせ

株式会社 FFG ビジネスコンサルティング
不動産ソリューション部
福岡市中央区大手門一丁目8番3号
FFG本社ビル
TEL. 092-723-2372

一級建築士や宅地建物取引士等の資格を保有し、豊富な経験を持つスタッフが、貴社が抱える様々なニーズに対応します。



田端主任コンサルタント（一級建築士）